



大河津分水部門 新潟日報社賞【撮影地：大河津分水 可動堰】

信濃川

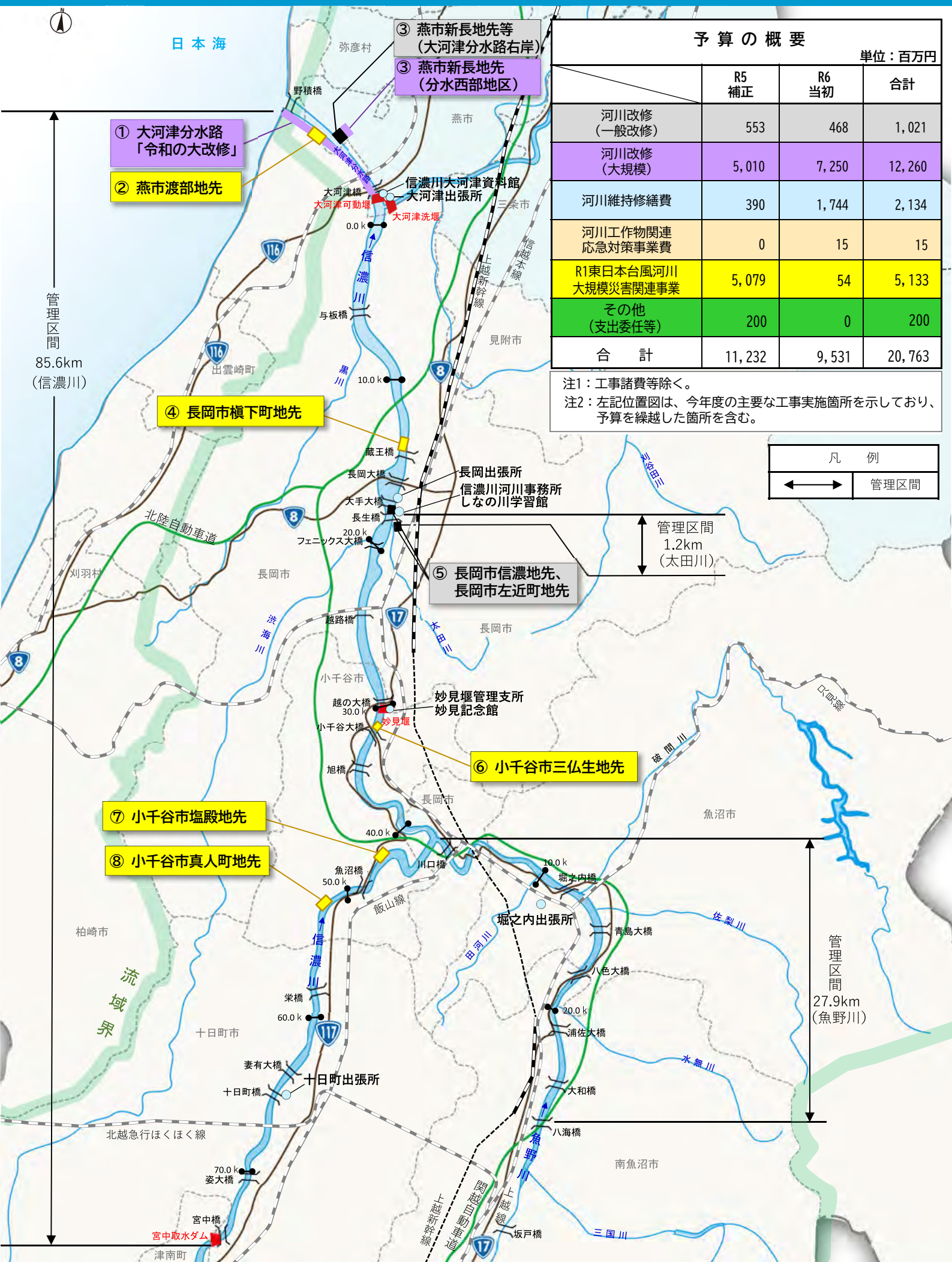
2024
事業概要



国土交通省 北陸地方整備局
信濃川河川事務所



グランプリ最優秀賞 信濃川中流及び魚野川部門【撮影地：小千谷市旭橋】



大河津分水路 山地部及び低水路掘削、第二床固改築、野積橋架替等

○事業期間 平成27年度～令和20年
※事業計画変更後の事業期間

①大河津分水路 「令和の大改修」

大河津分水路より上流側に位置する信濃川（中流部）や千曲川をはじめ、信濃川水系全体の洪水処理能力を向上させるため、最下流に位置する大河津分水路において平成27年度より事業に着手しています。

千曲川や信濃川（中流域）に甚大な被害をもたらした令和元年東日本台風洪水と同規模の洪水が発生しても、堤防の決壊、越水等による被害の防止又は軽減を図るため、令和4年12月に信濃川水系河川整備計画を変更し、低水路掘削範囲を追加する事業計画の変更を行いました。

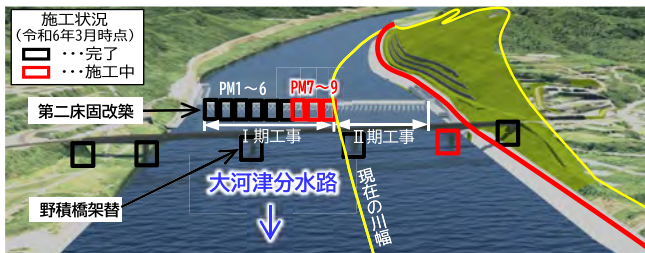
「令和の大改修」では、課題となっている洪水処理能力向上や河床の安定、老朽化施設の対策として、山地部及び低水路掘削、第二床固改築、野積橋架替等を実施します。



令和6年度は、山地部及び低水路掘削、第二床固改築、野積橋架替等を引き続き推進します。

なお、山地部の掘削土は、「大河津分水路が“ひらく”地域活性化プロジェクト」として、堤防の強化に活用している他、地域の活性化につながる周辺自治体の事業への有効活用を行っています。

また、大河津分水路「令和の大改修」では、効率的・効果的な施工を進めるため、BIM/CIM (Building and Construction Information Modeling / Management) の導入を行っています。



BIM/CIMによる大河津分水路「令和の大改修」完成予想図
(河口より上流を望む)



令和元年東日本台風による洪水時、大河津分水路の状況
撮影：R1.10.13
J R越後線信濃川分水橋梁付近

第二床固副堰堤付近
撮影：R1.10.13



河口付近の状況 (撮影日：令和6年2月29日)



新第二床固 鋼殻ケーソン (PM7~9) 据付・設置の状況 (撮影日：令和6年2月29日)



新野積橋 (仮称) 施工の状況 (撮影日：令和6年2月29日)



山地部掘削の状況 (撮影日：令和6年2月29日)

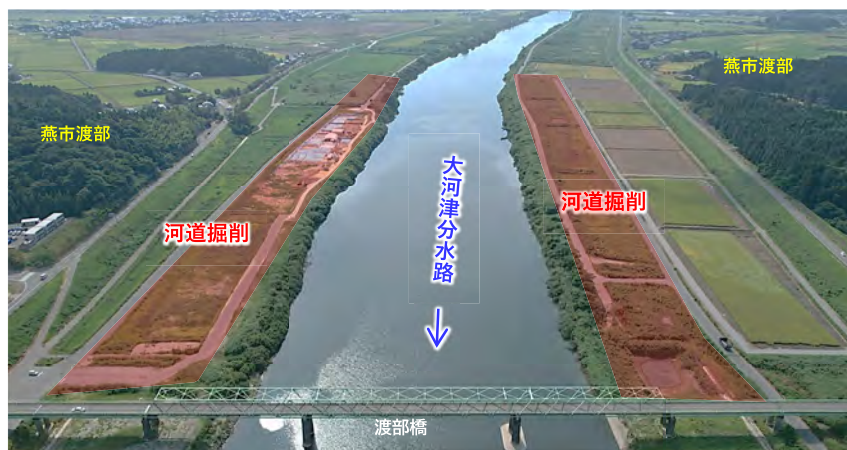
大河津分水路 河道掘削

①大河津分水路「令和の大改修」

② 燕市渡部地先

令和元年東日本台風時に計画高水位を超過し非常に危険な状態となった大河津分水路の河道を掘削し処理能力を向上させます。

令和6年度は、昨年度に引き続き石港遺跡の埋蔵文化財調査の実施、河道（低水路）の掘削を行います。



大河津分水路 堤防強化（浸透対策）

掘削土活用

③ 燕市新長地先等（大河津分水路右岸）

③ 燕市新長地先等（分水西部地区）

堤防の安全性を向上させることを目的に堤防の断面を大きくする堤防強化（浸透対策）を行っています。また、分水西部地区の低く冠水リスクの高い田に「令和の大改修」で掘削した土を活用した盤上げを行っています。

令和6年度は、蒲原用水の付け替えを完了させるとともに、旧島崎川排水樋管の撤去を行います。



信濃川 河道掘削

④ 長岡市榎下町地先

令和元年東日本台風時に流下能力不足により堤防が危険となった箇所の河道を掘削し処理能力を向上させます。

令和6年度は昨年度に引き続き、長岡市榎下町地先において、掘削を行います。



信 濃 川 河川防災ステーション

⑤ 長岡市信濃地先、長岡市左近町地先

迅速な災害復旧活動や洪水時の水防活動を支える拠点である「河川防災ステーション」を整備しています。

令和6年度は河川防災ステーションの整備と水防資材等の整備を進めます。

長岡地区
河川防災ステーション
(信濃)



信 濃 川 河 道 掘 削

⑥ 小千谷市三仏生地先

令和元年東日本台風時に流下能力不足により堤防が危険となった箇所の河道を掘削し処理能力を向上させます。

令和6年度は昨年度に引き続き、小千谷市の三仏生地先において、掘削を行います。



信 濃 川 遊 水 地

⑦ 小千谷市塩殿地先 ⑧ 小千谷市真人町地先

洪水を一時貯留する遊水地を整備し、令和元年東日本台風により発生した浸水被害を防ぎます。

令和6年度は、必要な用地の取得、工事用道路、河川と遊水地を仕切る堤防（囲繞堤）の工事などを進めます。



流域治水プロジェクト2.0

～ 流域治水の加速化・深化 ～

- 気候変動の影響により当面の目標としている治水安全度が目減りすることを踏まえ、流域治水の取組を加速化・深化させる。このために必要な取組を反映し『流域治水プロジェクト2.0』に更新する。

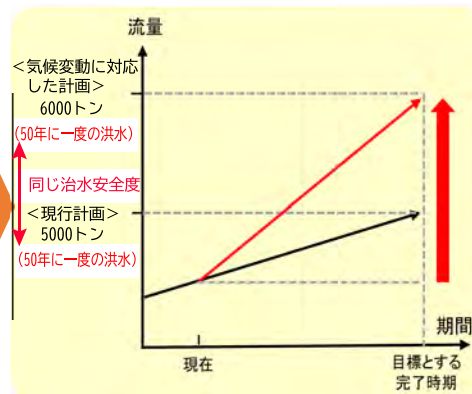
現状・課題

- 気温上昇を2℃に抑えるシナリオでも2040年頃には**降雨量が約1.1倍、流量が1.2倍**、洪水発生頻度が2倍になると試算
現行の河川整備計画が完了したとしても**治水安全度は目減り**
- グリーンインフラやカーボンニュートラルへの対応
- インフラDX等の技術の進展

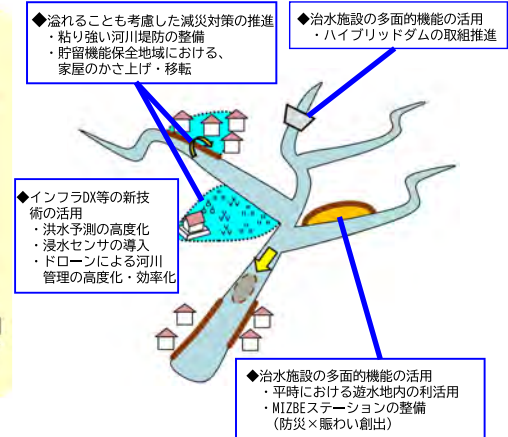
必要な対応

- 気候変動下においても、目標とする治水安全度を現行の計画と同じ完了時期までに達成する。
- あらゆる関係者による、様々な手法を活用した、対策の一層の充実を図り、流域治水協議会等の関係者間で共有する。

必要な対応のイメージ



様々な手法の活用イメージ



気候変動シナリオ	降雨量 (河川整備の基本とする洪水規模)
2℃上昇相当	約1.1倍

↓ 降雨量が約1.1倍となった場合

全国の平均的な傾向【試算結果】	流量
	約1.2倍

同じ治水安全度を確保するためには、**目標流量を1.2倍に引き上げる必要**

※現行の計画と同じ完了時期までに目標とする治水安全度を達成するため、様々な手法を活用し、集中的に整備を進めることが必要

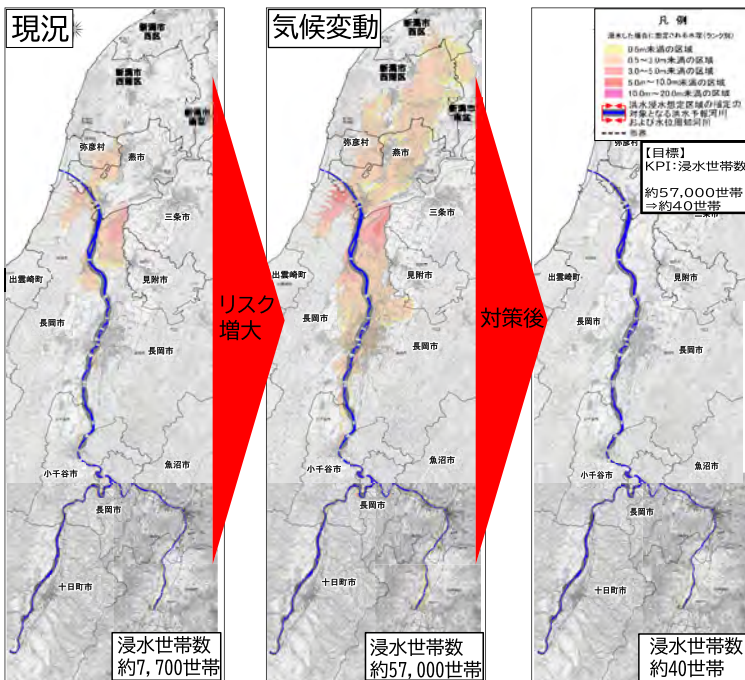
⇒現在の河川整備計画に基づく対策や流域における各取組を推進するとともに、気候変動を踏まえて追加で必要となる対策案の詳細については、更に議論を深めていく。

気候変動に伴う水害リスクの増大

※赤字: 現行の信濃川水系流域治水プロジェクトからの変更点

○信濃川、魚野川では、戦後最大規模となる昭和56年8月洪水と同規模の洪水に対し、2℃上昇時の降雨量増加を考慮した雨量1.1倍となる規模の洪水が発生した場合、信濃川及び魚野川における浸水世帯数が約5.7万世帯(気候変動考慮前の約7.5倍)になると想定されるが、事業の実施により、家屋の浸水被害の防止又は軽減が図られる。

■気候変動に伴う水害リスクの増大(大臣管理区間)



■水害リスクを踏まえた各主体の主な対策と目標

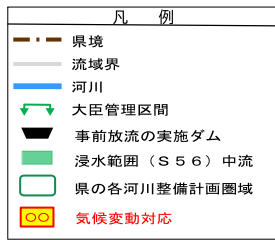
【目標】令和元年東日本台風洪水や昭和56年8月洪水等の戦後最大規模の洪水に対する家屋浸水の防止

○信濃川: 大河津分水路河口(8.8k)～宮中堰堤(74.8k)、
魚野川: 信濃川合流点(0.0k)～八海橋(27.8k)

	実施主体	目的・効果	追加対策	期間
氾濫をできるだけ防ぐ・減らす	国	約5.7万世帯の浸水被害を解消	河道掘削・洪水調節機能の増強の検討	概ね30年
	県・市町村・その他	水田貯留やため池の活用による流出抑制により浸水被害(外水・内水)を軽減	水田の貯留機能向上のための「田んぼダム」の取組推進	—
被害対象を減らす	市町村	防災まちづくり(流域市町村)	立地適正化計画における防災指針の作成	—
被害の軽減・早期復旧・復興	国・県・市町村	命を守る避難行動	流域タイムラインの運用	—
	国	災害対応や避難行動の支援	洪水予測の高度化、「水害リスクライン・洪水キックル」の普及・利活用促進	—

流域治水プロジェクト2.0

～ 「日本一の大河」上流から下流まで流域一体となった防災・減災対策の推進 ～



- 令和元年東日本台風では、信濃川水系千曲川、信濃川で戦後最大を超える洪水により甚大な被害が発生したことを踏まえ、再度災害防止対策、事前防災を進める必要があることから、**信濃川水系緊急治水対策プロジェクトに加え、以下の取り組みを実施。**
- 更に信濃川、魚野川の国管理区間においては、気候変動（2℃上昇）下でも目標とする治水安全度を維持するため、戦後最大規模となる昭和56年8月洪水と同規模の洪水に対し、**2℃上昇時の降雨量増加を考慮した雨量1.1倍となる規模の洪水が発生した場合でも、家屋の浸水被害の防止又は軽減を図る等、更なる治水対策を推進する。**その実施にあたっては、多自然川づくりの考え方に沿って、河川環境の整備と保全を図るなど、総合的に取り組む。

※赤字: 現行の信濃川水系流域治水プロジェクトからの変更点



- 「流域治水関連法の活用」の検討
- ※上記の他、気候変動対応のための洪水調節機能の増強が必要
- ※流域治水プロジェクト2.0で新たに追加した対策については、今後河川整備計画の変更の過程でより具体的な対策内容を検討する。

- 流域全体における対策
- 砂防関係施設の整備（信濃川流域）
 - 森林整備・治山対策（信濃川流域）

※本図の浸水範囲は大臣管理区間の外水氾濫のみを想定したものである。
※本対策箇所は主要箇所のみ記載。
※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。



- 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策
 - ・河道掘削、堤防整備・強化、遊水地整備、耐震対策、災害復旧等
 - ・大河津分水路改修
 - ・排水機場等の整備、耐水化の取組
 - ・砂防関係施設の整備
 - ・水田の貯留機能向上のための「田んぼダム」の取組推進
 - ・学校グラウンドなどを活用した雨水貯留施設
 - ・支川水路の流下能力向上等による支川氾濫抑制、内水被害の軽減
 - ・既存ダム等20ダムにおける事前放流等の実施、体制構築（関係者：国、新潟県、東日本旅客鉄道（株）、東京電力（株）、東北電力（株）、土地改良区等）
 - ・森林整備・治山対策
- ・BIM/CIM適用による三次元モデルの積極的な活用
- ・事業間連携を通じた土砂の有効活用
- ・気候変動対応のための洪水調節機能の増強 等



- 被害対象を減少させるための対策
 - ・「まちづくり」や住まい方の誘導による水害に強い地域づくりの検討
 - ・高床式住まいの推進
 - ・多段階な浸水リスク情報の充実
- ・立地適正化計画における防災指針の作成 等

- 被害の軽減、早期復旧・復興のための対策
 - ・緊急復旧などを迅速に行う防災拠点等の整備（河川防災ステーション）
 - ・河川、砂防、農業用ため池等の各種ハザードマップの作成・普及
 - ・流域タイムラインの運用
 - ・マイ・タイムライン・コミュニティタイムライン等の作成・普及
 - ・小中学校における防災教育の推進
 - ・住民への情報伝達手段の強化
 - ・要配慮者利用施設の避難確保計画作成に向けた支援
 - ・企業等への浸水リスク情報の共有
 - ・水害リスク空白域の解消
- ・洪水予測の高度化
- ・気象情報の充実、予測精度の向上
- ・水害リスクライン・洪水キキクルの普及・利活用促進
- ・樋門・樋管の遠隔監視
- ・ワンコイン浸水センサの普及 等

信濃川水系流域治水の推進

◆ 多段階の浸水想定図・水害リスクマップ

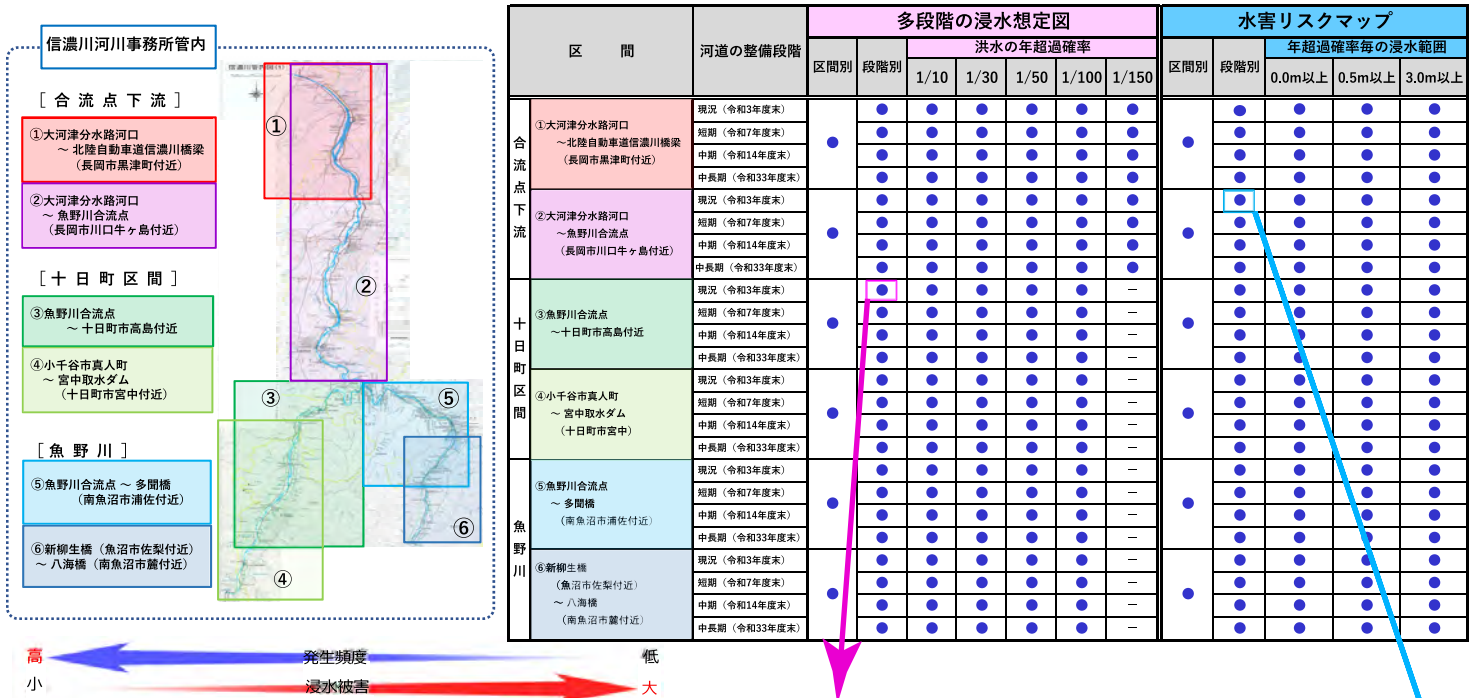
国土交通省では、土地利用や住まい方の工夫の検討及び水災害リスクを踏まえた防災まちづくりの検討など、流域治水の取組を推進することを目的として、発生頻度が高い降雨規模の場合に想定される浸水範囲や浸水深を明らかにするため、「多段階の浸水想定図」及び「水害リスクマップ」を作成・公表しています。

多段階の浸水想定図

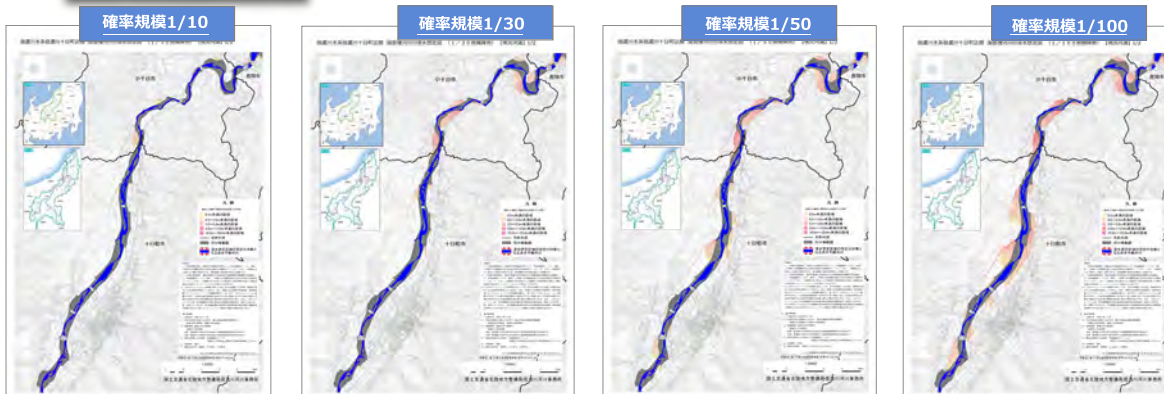
各年超過確率1/10、1/30、1/50、1/100、1/150 それぞれの規模での降雨に伴う洪水により河川が氾濫した場合の浸水深をそれぞれシミュレーションにより算出し表示したものです。

水害リスクマップ (浸水頻度図)

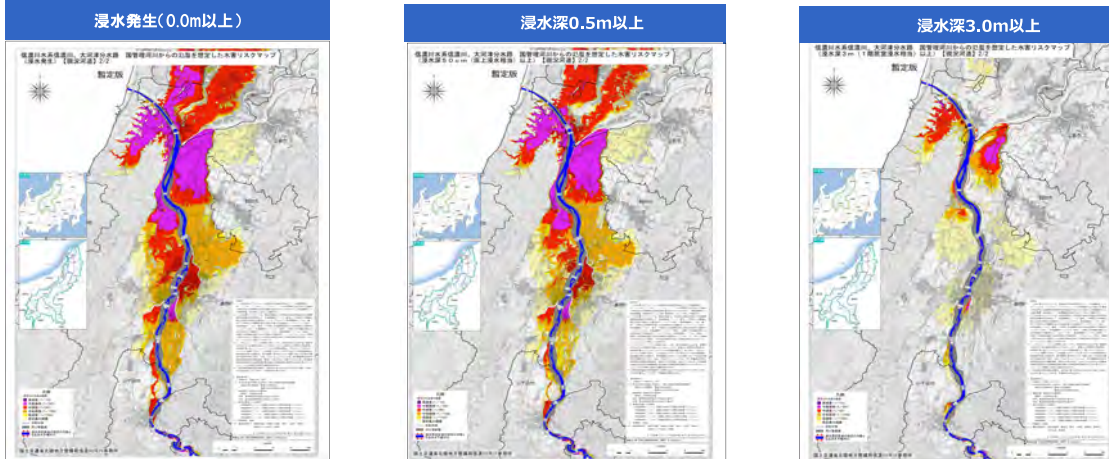
多段階の浸水想定図を1枚に重ね合わせ年超過確率毎の浸水範囲を表示したものです。



多段階の浸水想定図



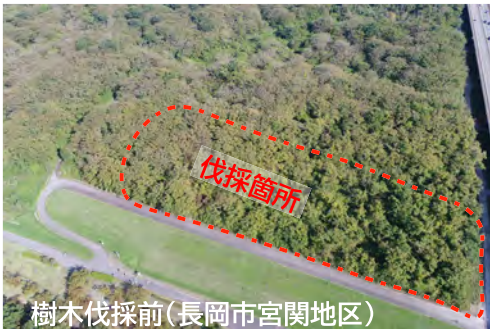
水害リスクマップ



河川の維持管理

堤防除草・樹木伐採

河川巡視や堤防等点検を円滑に行い、川の中に繁茂した樹木が洪水の流れを妨げないようにするため、堤防除草や樹木伐採を計画的に実施しています。



公募伐採

河川に生えている樹木の伐採は、チェーンソーなどで樹木を切断し、切断した樹木は集積し、処分場へ運搬、処分という手順で行い、多額の費用がかかります。

そのため伐採費用のコスト縮減として、希望する方を募り河川内の樹木を伐採していただく『公募伐採』を一部の地域で行っています。伐採した樹木は参加者で持ち帰っていただき、薪ストーブの燃料などに使われています。

伐採前



伐採後



河川の危機管理

いつ発生するか分からない災害に備えて、河川の状態把握に努めているほか、災害対策機械の訓練や水防対応に必要な資機材の確保、水防関係機関との連携などに努めています。

災害対策機械

地域防災拠点として、排水ポンプ車、照明車、衛星画像伝送装置等を配備し、毎月訓練を行って、災害に備えています。



新黒川水門 ポンプ車による排水状況 (R1.10.13)

水防訓練



月の輪工

組 取 の 報 広

雄大に流れる信濃川の魅力や「令和の大改修」による大河津分水の事業効果をより広く知ってもらうため、様々な取り組みを行っています。

OHKOUZU day R5.8.25



現地と会場をウェブで結んだバーチャル見学会や、可動堰等のライトアップイベントを実施しました。なお、大河津分水通水100周年事業として開催した令和4年度からの一連のイベントに対し、土木広報大賞の準優秀部門賞（イベント部門）を受賞しました。

信濃川サミット R5.11.22



信濃川流域の7つの小学生の皆さんから、川の学習成果と多くの人から親しまれる未来の川についてアイデアや想いなどを発表していただきました。

合格通水石の配布 R6.2.14



受験シーズンを前に、若手職員が手作りによる「合格通水石」を作成し、受験生を応援しました。

信濃川・大河津分水写真コンテスト R5.7～



令和5年度も多数の応募の中から、厳正な審査を経て優秀作品が選ばれ、その作品を流域自治体持ち回りで展示しました。

全健賞 受賞 R5.6月

大河津分水通水100周年・関屋分水通水50周年記念 未来につながる事業

受賞機関：国土交通省北陸地方整備局 信濃川河川事務所・信濃川下流河川事務所・大河津分水通水100周年・関屋分水通水50周年未来につながる事業実行委員会

主催：一般社団法人 全日本建設技術協会

全健賞とは、我が国の良質な社会資本整備の推進と建設技術の発展を促進するために設けられたものです。

評価のポイント

大河津分水通水100周年・関屋分水通水50周年記念事業の取組。行政側からの発信のみではなく、NPO、商工会議所と連携し、地域の小学生も参加、発信するなど地域協働型での周年記念イベント実施により、河川事業への地域の理解をより高める広報活動とした点や、従来までの継続的な取組が地域協働型周年行事を推進していること、「歴史を知る」、「つながりを創る」、「未来を考える」というコンセプトを明快にしなが推進していることが評価された。



（一般社）河川部門 表彰



土木広報大賞 受賞 R6.2月



準優秀部門賞【イベント部門】

国土交通省 北陸地方整備局 信濃川河川事務所
OHKOUZUday～大河津分水の日～

主催：公益社団法人 土木学会 土木広報センター

準優秀賞 イベント部門 受賞

「土木広報大賞2023」は、日本全国の各地域で展開されている様々な広報のうち、暮らしを支えている「土木」の役割・意義・魅力について広報を行っている活動または作品などで他団体の模範となるもの、他団体への展開が期待されるものなどを取り上げ、顕彰することを目的とした「土木の広報に関するコンテスト」です。

受賞一覧



準優秀部門賞（11団体）



信濃川河川事務所ホームページ

◆URL <https://www.hrr.mlit.go.jp/shinano/>



信濃川河川事務所のホームページから、防災に関する様々な情報を発信しています。

「川の防災情報」

●URL <https://www.river.go.jp/>

国土交通省が運営する防災ポータルページ。気象・河川・土砂災害等を1画面でまとめて確認できます。



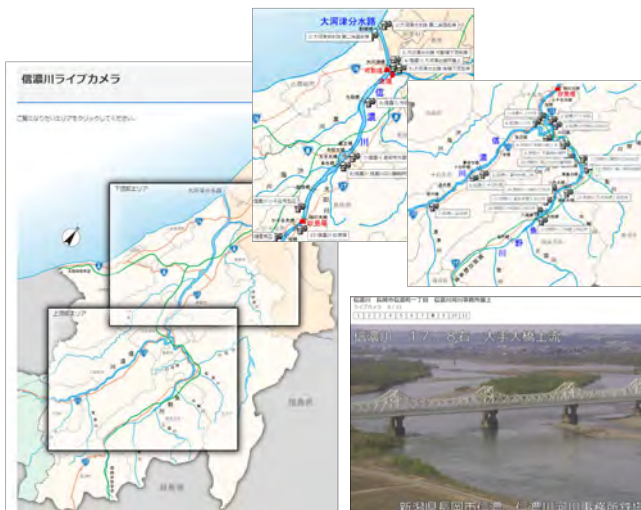
信濃川河川事務所ホームページ

▶ 防災・災害情報



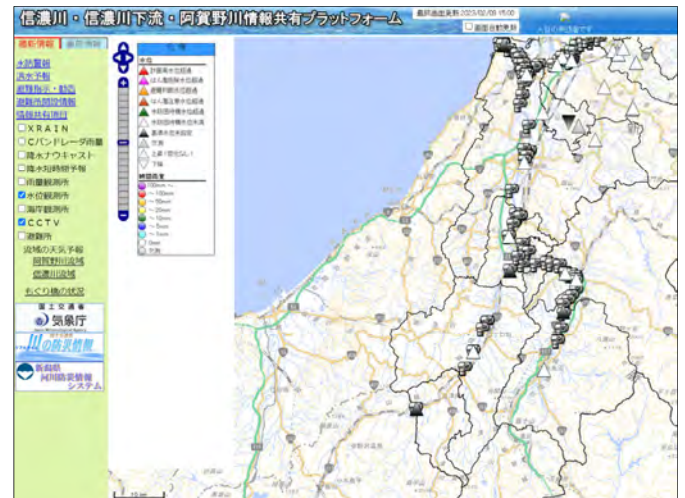
信濃川ライブカメラ

- 信濃川のライブカメラを見ることができます。



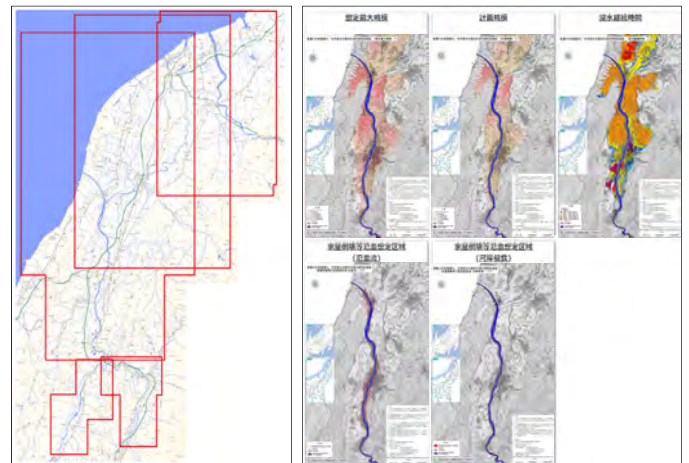
信濃川の防災情報

- 信濃川・信濃川下流・阿賀野川(水位・雨量・CCTVカメラ等)の情報を確認することができます。



浸水想定区域図(信濃川・大河津分水・魚野川)

- 想定できる最大規模の洪水が発生した場合の浸水範囲を示しています。



S N S

《エックス》

平常時には、防災を啓発する活動、事務所の事業などの情報を発信し、防災体制時には、信濃川・魚野川に関する水位、水防活動の状況、河川巡視結果などの情報を発信しています。



- 公式アカウント @mlit_shinano
- URL <https://twitter.com/mlit-shinano/>

《フェイスブック》

日々の事務所の仕事やイベントの情報など、信濃川・魚野川に関する情報を広く発信しています。



- 公式アカウント 信濃川好太郎
- URL <https://ja-jp.facebook.com/kotaroshinano/>

《インスタグラム》

信濃川河川事務所が実施する事業情報、信濃川・魚野川に関する情報を広く発信しています。



- 公式アカウント mlit_shinano
- URL https://www.instagram.com/mlit_shinano/

事務所・出張所の位置

国土交通省 北陸地方整備局 信濃川河川事務所

〒940-0098

新潟県長岡市信濃1丁目5番30号

TEL:0258-32-3020



総務課 TEL:0258-32-3020
経理課 TEL:0258-32-3021
用地課 TEL:0258-32-3022
工務課 TEL:0258-32-3234
計画課 TEL:0258-32-3245
品質確保課 TEL:0258-32-3272

流域治水課 TEL:0258-32-3243
管理課 TEL:0258-32-3259
占用調整課 TEL:0258-32-3268
防災情報課 TEL:0258-32-3273
施設管理課 TEL:0258-32-3278

大河津出張所

〒959-0123

新潟県燕市大川津

TEL:0256-97-2121

長岡出張所

〒940-0098

新潟県長岡市信濃2丁目10番25号

TEL:0258-32-4426

越路出張所

〒949-5411

新潟県長岡市来迎寺甲2036

TEL:0258-92-2158

妙見堰管理支所

〒940-1134

新潟県長岡市妙見町29番地

TEL:0258-23-1636

十日町出張所

〒948-0004

新潟県十日町市下川原町16番地

TEL:025-752-2180

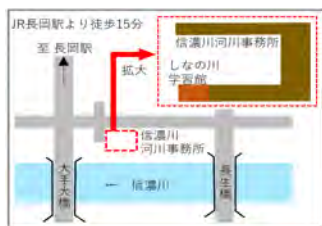
堀之内出張所

〒949-7412

新潟県魚沼市与五郎新田4-1

TEL:025-794-2064

しなの川学習館



〒940-0098 新潟県長岡市信濃1丁目5番30号

信濃川にまつわる様々な資料を展示しているほか、インターネットや信濃川に関する図書なども常設しています。

- 開館時間／9:00～17:00
- 休館日／土・日・祝日、年末年始
- 入館料／無料

信濃川大河津資料館



〒959-0124 新潟県燕市五千石

TEL:0256-97-2195

大河津分水の歴史と役割をパネルや映像、展示模型から学ぶことができます。また、防災に関する情報も発信しており、防災教育を含めた総合学習に利用できます。

- 開館時間／9:00～16:00
- 休館日／毎週月曜日
(月曜日が休日の場合は、その日以降の休日でない最初の日)
※ 年末年始(12月29日から1月3日)
- 入館料／無料
- URL／<https://www.hrr.mlit.go.jp/shinano/ohkouzu/>



妙見記念館



〒940-1134 新潟県長岡市妙見町29番地

TEL:0258-23-1636

信濃川と私たちの暮らしの関わりや、妙見堰の役割を紹介しています。

- 開館時間／9:00～16:30
- 休館日／土・日・祝日
※ 土、日、祝日も事前にご予約いただいた場合には、開館いたします
※ 年末年始(12月29日から1月3日)
- 入館料／無料
- URL／https://www.hrr.mlit.go.jp/shinano/myoken_k/

